

難易度
中級

「商標」と「ブランド」の開発と育成

～ライバルより早く、自社商標・ブランドを想起してもらうために～

講師	青木 博通 氏	ユアサハラ法律特許事務所 パートナー・弁理士	
日時	2026年2月2日(月) 13:30～16:30		

- ◆自社の商標やブランドは、市場における顧客の意思決定において、ライバルよりも早く想起してもらうことが必要です。
- ◆それには、商標やブランドの基礎知識を習得し、正しく使用し、育成していくことが必要です。
- ◆本セミナーでは、商品やサービスの目印である商標、企業のイメージの総体であるブランドの基礎知識について解説します。
- ◆商標及びブランドの正しい使用例と悪い使用例について、その理由を含めて紹介します。
- ◆日本、米国、欧州の企業の現在のブランディングの方向性やどのように戦ってブランドを育成してきたかを紹介し、具体的に自社事例との比較を行えるようにします。
- ◆商標及びブランドをどのように開発し、育成していくべきかについて、ネーミングの手法も含め解説します。
- ◆最後に、どの法律を利用して、商標及びブランドを保護したらよいか解説します。
- ◆本セミナーに参加することにより、自社の商標やブランドをライバルよりも早く想起してもらう手法を、法律をベースに習得することができます。

【解説内容（予定）】

1. 商標・ブランドの基礎知識

- 商標とブランドの違い
- 何故、ブランド構築が必要となったか？
- ブランド構築に必要なツール
(商標権、意匠権、著作権、不競法等)
- 商標とブランドの関係
・ブランド要素、技術ブランド、デ・ブランディング、
コ・ブランディング、ブランド拡張、2次的ブランド

2. 商標・ブランドの正しい使用方法

- 商標・ブランドの正しい使用方法の基本
- 市場でライバルより早く、自社商標・ブランドを想起してもらうためにやるべきこと
- 良い例と悪い例
- 正しく使用しない場合の法的効果
・不使用取消審判
・不正使用取消審判
・商標権侵害、不正競争防止法違反
・普通名称化

3. 各社の事例の紹介（日本、米国、欧州）

- 各社のブランド構成
- 各社のブランディングの方針
- 戦って守る自社ブランド（100年前から戦っている企業）
- 財閥系ブランドの歴史と管理方法

4. 商標・ブランドの開発と育成

- 強い商標と弱い商標の階層性とネーミング
- ハウスマーク・プロダクトマークとネーミング
- B2BとB2Cの違いとネーミング
- ネガティブチェックとネーミング
- 使用による識別力獲得の手法
- 商標・ブランドの機能からみた育成方法
- 商標・ブランドの管理
(ライセンス、普通名称化対策)

5. 商標法とブランド戦略の乖離と調整

6. 他の法律によるブランドの保護

- 意匠法
- 不正競争防止法
- 著作権法
- 民法

7. まとめ

テキストはPDFで共有させていただきます

◆この研修は、日本弁理士会の継続研修として申請中です。
この研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として
2.5単位が認められる予定です。（※zoomにてご参加下さい。
アーカイブ視聴は単位認定対象外です。）



ライブ配信だからその場で講師に質問可能 &
アーカイブ配信も実施（各講義翌日から2週間）
・聞き逃しても安心！期間内はなんどでも。
・再生速度を変更可能！

受講料	会員10,200円 一般12,000円（※税込）	 申込みページ QRコード
申込	「発明推進協会 研修」で検索 http://www.jiii.or.jp/kenshu/chizaienkshu_tanki.html	
お問い合わせ先	(一社)発明推進協会 研修チーム TEL 03 3502 5439	